
認知症透析患者の社会的支援と課題 - キーパーソンの重要性

医療法人衆和会 長崎腎病院 長崎腎クリニック

○藤原久子 林田めぐみ 澤瀬健次 橋口純一郎 原田孝司 船越 哲

【はじめに】

高齢者を支援することは安易ではなく、さらに認知症透析患者においてはキーパーソンの存在が大きな鍵となる。

【症例提示】

症例 1;82 歳男性、透析日を忘れてしまい、自由奔放に外出する独居認知症透析患者に対し、キーパーソンである長男と密な連携を取ながら独居を続けさせ、最終的には入院で看取った。症例 2. 84 歳男性、認々介護でキーパーソンが不在であったが、多部署から構成される支援チームを組み、精神科医にも介入を依頼し、結局施設入居で対応した。

【考察】

重症の認知症があっても、キーパーソンさえ確保できれば対応は可能である。キーパーソン不在の場合、チーム体制で社会的支援を行うが、今回は大きな困難を伴ったゆえにチームの連携が強化されたと思われた。

【今後の課題】

認知症透析患者の社会支援において「キーパーソンが不在」のケースは真の困難症例である。2000 年から成年後見人制度が施行されてはいるが、現在のところ機能されていない場面が多い。現時点では施設で対応することとなるが、支援においては患者に敬意を表し人格を尊ぶことが重要と考える。